

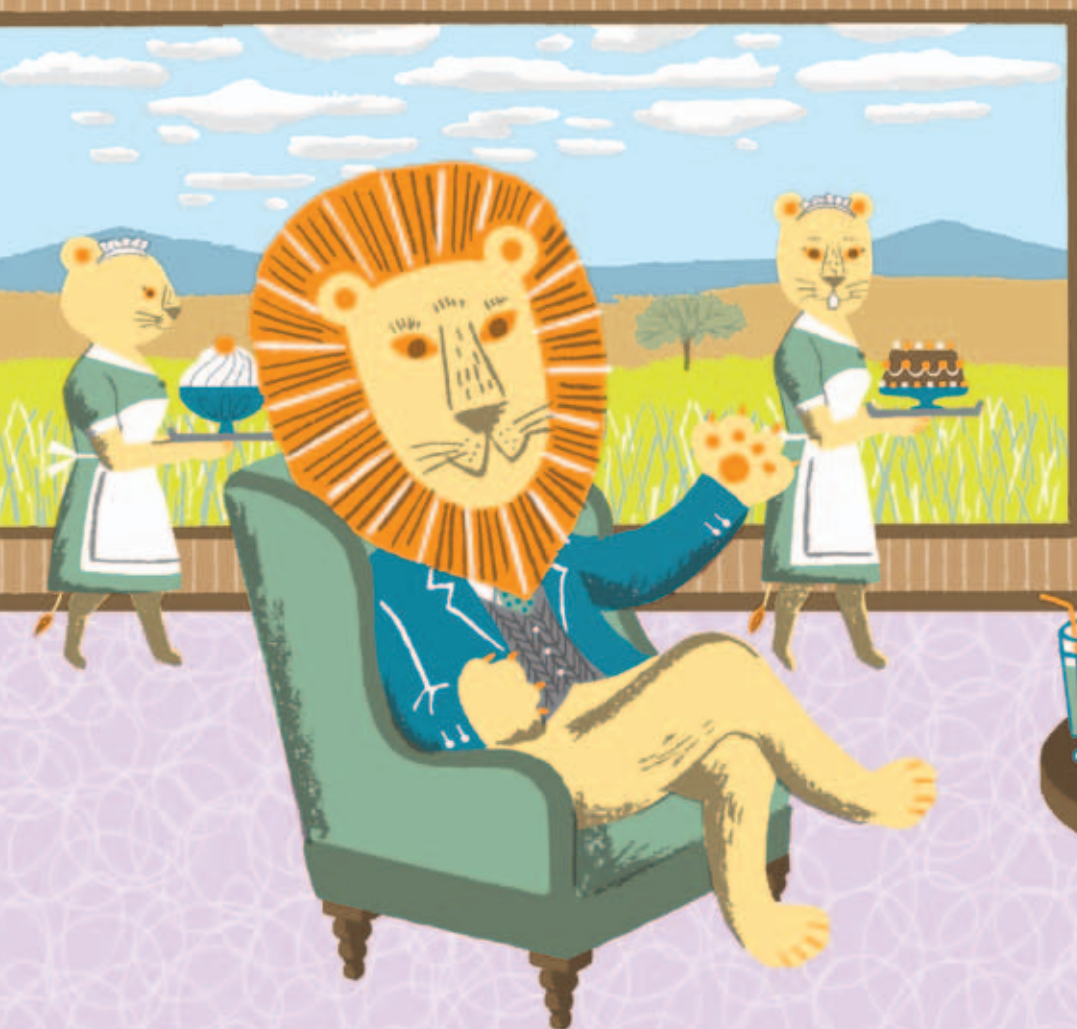


ライオンぼうやと サバンナのまじょ

ひろーい ひろーい アフリカの サバンナには、
いろんな どうぶつが、すんでいます。
シマウマ、キリン、ゾウ、チータ、ヌー、そしてライオン。

くすのき あきこ
ぶん・楠 章子 え・オカダ ケイコ

監修 岡山大学 岡崎 好秀



ライオンの おとうさんは、サバンナで いちばん おかねもちです。
りっぱな ふくをきて、りっぱな おやしきにすみ、
かっこいい くるまに のっています。
「だいじょうぶ!」というのが、くちぐせです。
なーんでも、おかねが あれば、だいじょうぶ!
ライオンの おとうさんは、かわいい ぼうやに、いつも いいます。
「ぼうや、おかねが あるから、なーんでも、だいじょうぶ!
好きなことを、好きなだけ しなさい」
「はい、おとうさん」



ぼうやは、たべるのが、だいすき。
とくに、あまいものが、だいこうぶつです。
だから、キャンディーやケーキ、チョコレートやビスケットを、
好きなものを、好きなときにたべます。
たべたあとは?
そう、はみがきを しなくちゃいけませんよね……。
でも、ぼうやは、「そんなの、いやだよー」 って、そのまま ねてしまいます。
あらあら、それでいいの?

「あのままじゃ、
ひどい むしばに なってしまうわよ」

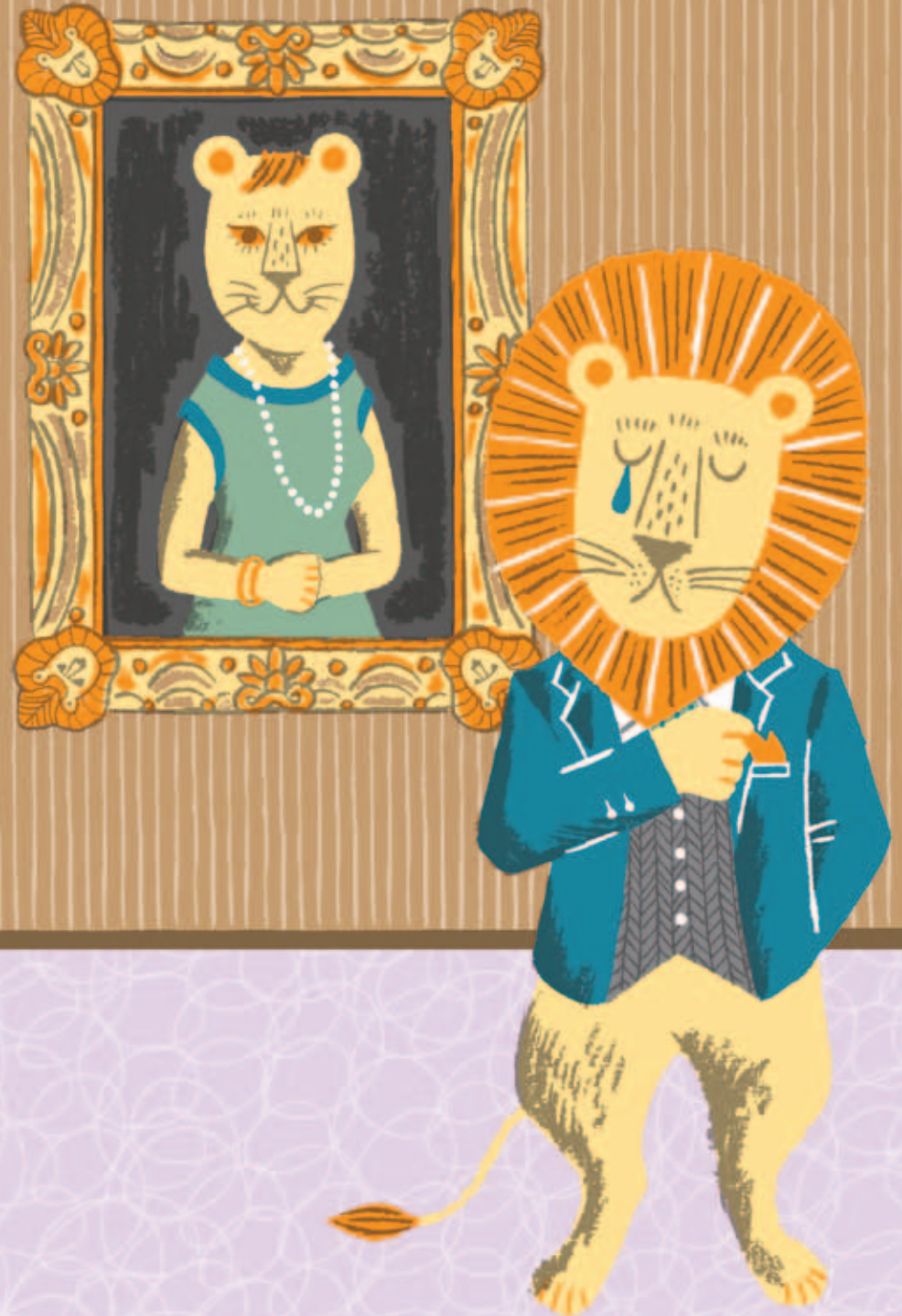
「ひどくなったら、
はを、ぬかなくちゃ いけないわ」
「はが なくなったら、
どうぶつは、いきていけないのに」

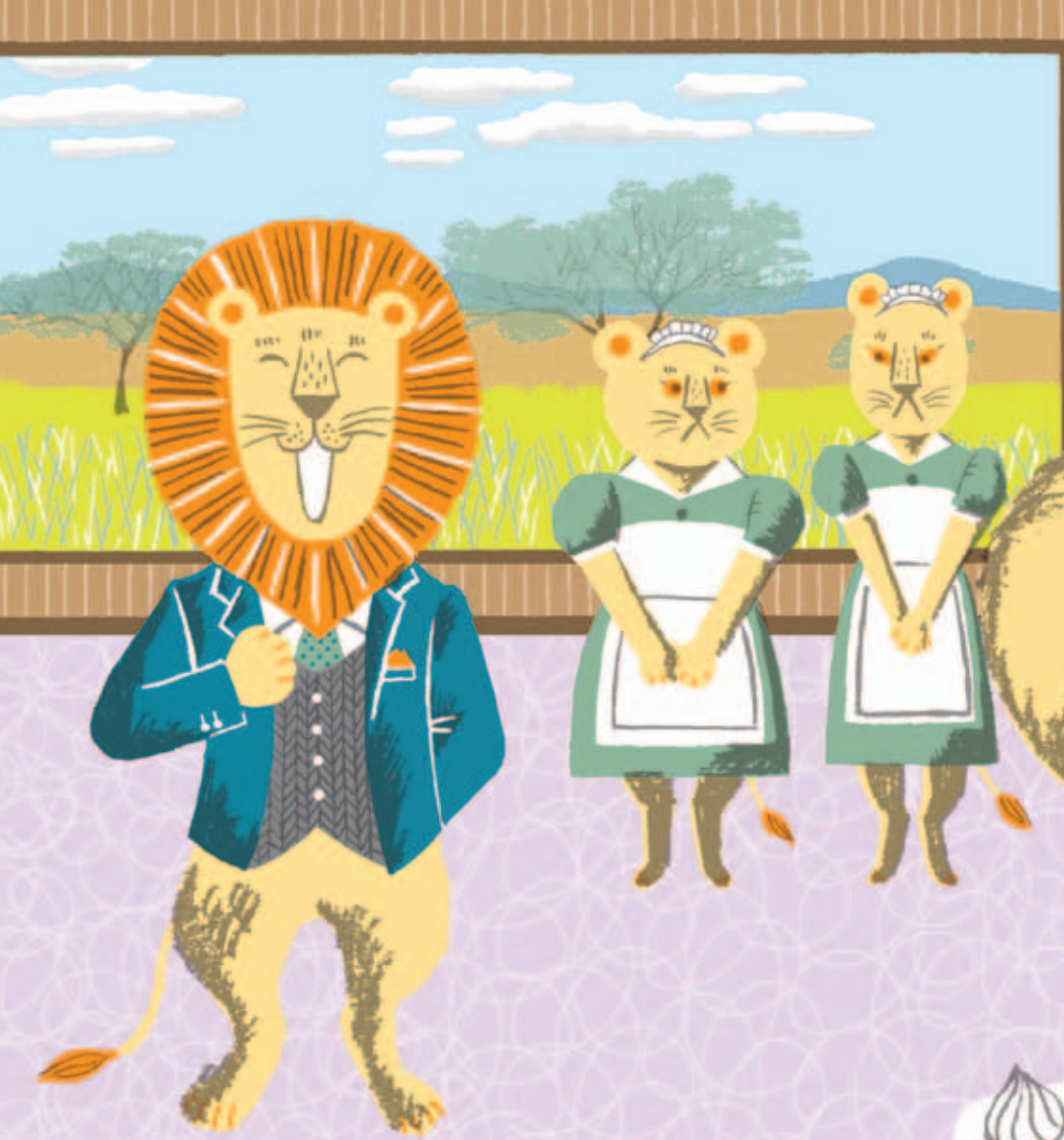
おやしきの おてつだいさんたちは、
ぼうやのことが、しんぱいです。



ぼうやには、
おかあさんが いません。
おかあさんが いたら、
ちゃんとはを みがきなさいと、
しかっている はずなのに。

ぼうやが ちいさなとき、
ライオンの おかあさんは、
びょうきで、しんでしまったのです。
「おかあさんが いなくても、
さみしくないように。
ぼうやは、あまいものを、
いくらでも たべたらいいのだよ」と、
ライオンの おとうさんは、
なみだを ひとつぶ、こぼします。





おてつだいさんたちは、むしばのことを はなしましたが、
ライオンのおとうさんは、わっはっはと わらいました。
「なーんでも、おかねがあるから、だいじょうぶ！
むしばなんて、はいしゃさんに いけば、
すぐに なおしてくれるさっ」

あーん。

ぼうやの くちの中を、のぞいてみましょう。

あらあら、むしばだらけ。ほうっておくと、たいへんなことに、
なってしまいますよ！





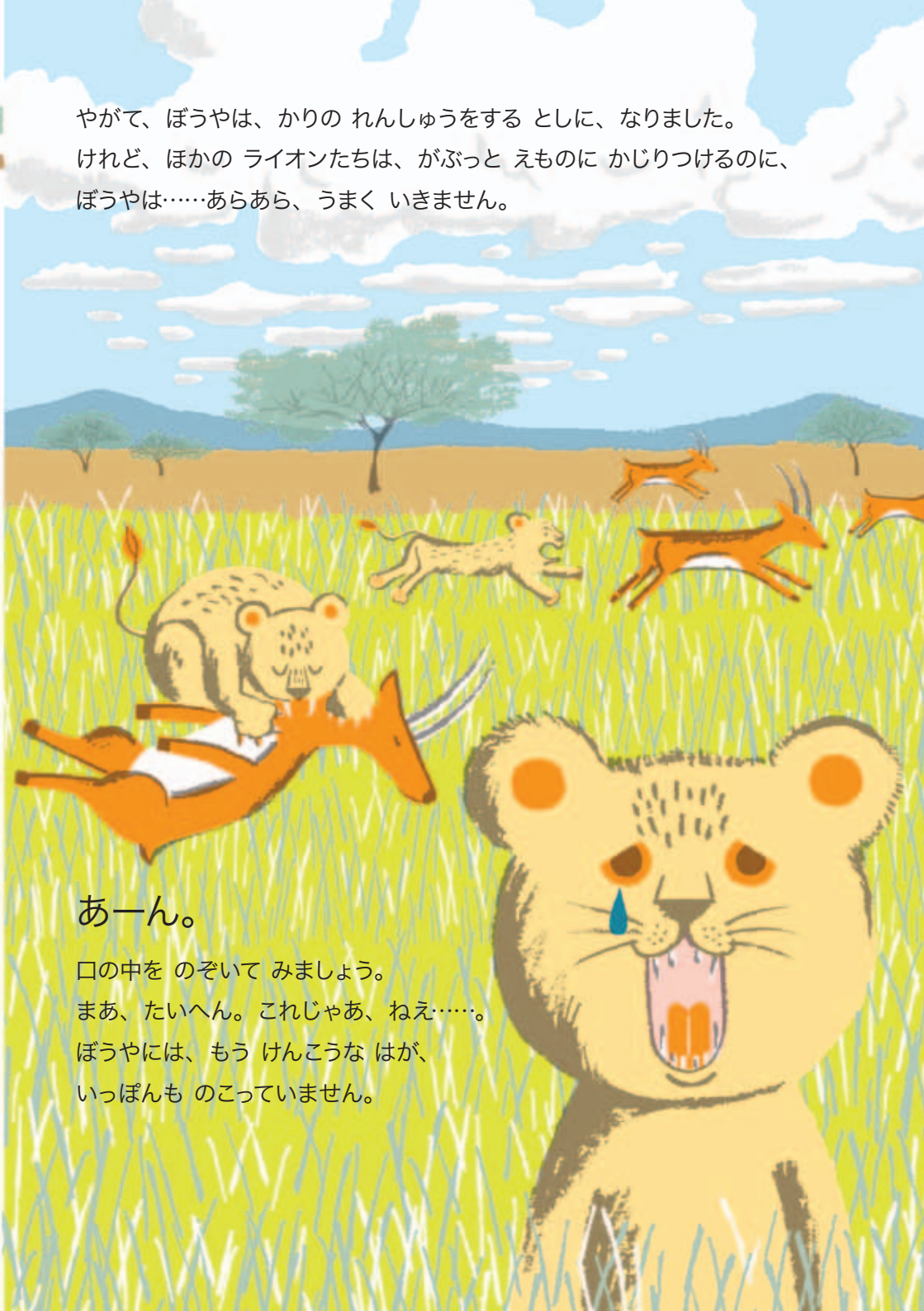
ライオンのおとうさんは、わっはっはと わらいながら、
はいしゃさんに、ぼうやをつれていきました。
「おかねは、いくらでも あるからな。はりきって、なおしてやっておくれ」
「はいはい、わかりました。でも、きをつけてくださいね。
でないと、たいへんなことになってまいりますよ」
はいしゃさんは、きつく ちゅういしました。

なのに、ぼうやは、まいにち、キャンディー、ケーキ、
チョコレートにビスケットを、もぐもぐ、もぐもぐ。
いつも なにか、くちに いれていないと、きが すみません。

いたくなったら、はいしゃさんに いって、
なおしてもらって、
またもぐもぐ。



やがて、ぼうやは、かりの れんしゅうをする としに、なりました。
けれど、ほかの ライオンたちは、がぶっと えものに かじりつけるのに、
ぼうやは……あらあら、うまく いきません。



あーん。

口の中を のぞいて みましょう。
まあ、たいへん。これじゃあ、ねえ……。
ぼうやには、もう けんこうな はが、
いっぽんも のこっていません。

ライオンの おとうさんは、ぼうやを、またまた はいしゃさんに、
つれていきました。

「せんせい、よろしくたのみますっ」

「うーむ」

はいしゃさんは、こまったかおを しています。

「これはもう、なおしようがないですよ」

はいしゃさんは、いいました。

「そ、そんなー。いつものように、なおしてやってください!」



ライオンの おとうさんは、ひっしに たのみましたが、
「だって、もうなおすところが、ないんだからっ!」
と いわれて しまいました。

おとうさんは、「いくらでも、はらいますから」と、
かばんから、おかねを だして、ならべました。



けれど、はいしゃさんは、ふうーと、ためいきをつきました。

「だから、ちゅういしたじゃないですか……」

そして、こういいました。

「これはもう、サバンナの まじょのところに、いくしか、ありませんなあ」

サバンナのまじょ!

ライオンの おとうさんは、ぶるるっと ふるえました。

まじょは、どんなことでも かなえてくれますが、かわりに、とんでもないものを、
ほしがる そうです。



もしかしたら、いのちさえも、うばわれてしまうかも しれません。

けれど、このままでは、だいじな ぼうやは、しんで しまいます。

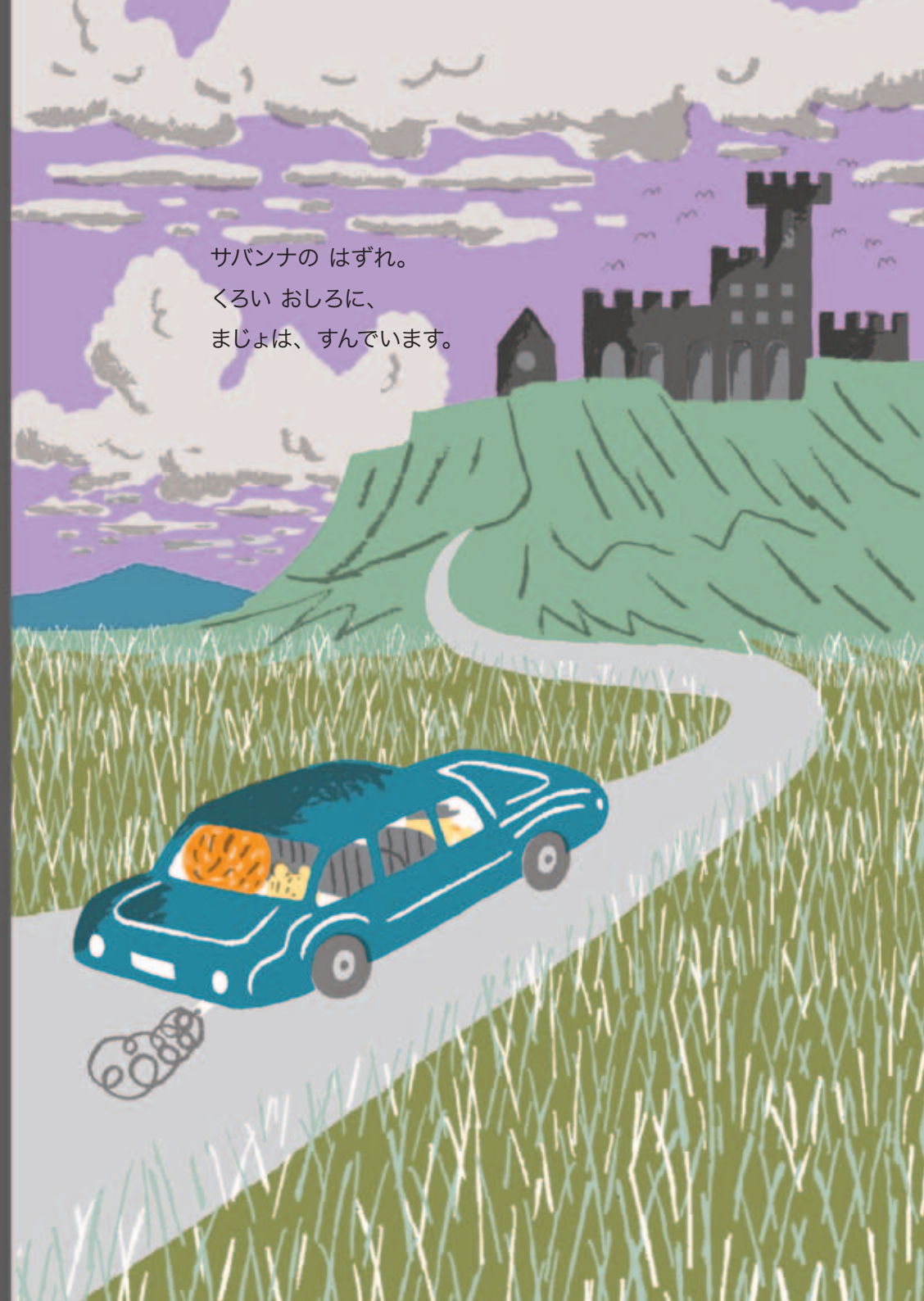
おとうさんは、けっしん しました。

「たとえ、わしの いのちを さしだしても、ぼうやの はを、なおして もらおう」

サバンナの はずれ。

くろい おしろに、

まじょは、すんでいます。



「おねがいします、ぼうやの はを、なおしてください！
どんなものでも、さしあげますっ」

ライオンの おとうさんは、
あたまをさげて、おねがいました。
まじよは、おかねもちの ライオンのことを、
よく していました。
おかねが あれば、なんでも だいじょうぶと おもっていて、
ぼうやを、あまやかしてばかりの おとうさん。



「ほんとうに、すべてを、さしだすですね

まじよは、かくにんしました。

「はいっ」

おとうさんは、つよく うなずきました。

「うふふふ。ならば、あなたの すべてを、いただきましょう～」

まじよは、ラルララ〜と じゅもんをとなえ、まほうの つえを、ふりました。

ララルララ〜ん。

じかんよ、もどれー。

ララルララ〜ん。

じかんよ、もどれー。

ライオンの おとうさんと ぼうやは、
めが ぐるぐるまわって、ばたんっと、
たおれて しまいました。





はっと、めが さめたとき、ライオンの おとうさんと ぼうやは、
ひろーい サバンナに、たおれていました。
「あら、おはよう。きょうも、いいおてんきよ」
そこには、ライオンの おかあさんが、います。
しんで しまったはずの、おかあさんが。

ぼうやは、まだ よちよちあるきで、おとうさんは、とても わかいのです。
ぼうやの はは、しろくて、むしばは、いっぽんも ありません。
おとうさんは、おかねを、すこしも、もっていません。
もちろん、りっぱな おやしきも、ありません。



「わはははっ」
おとうさんは、
わらいました。

「どうしたの？」

おかあさんは、めを ぱちぱちさせています。

「ここから、もういちど、スタートか。」

うんっ、だいじょうぶ！」

ライオンの おとうさんは、ぎらぎらがやく たいようにむかって、
ガオオーと ほえました。

ぼうやも、まねをして、ガオオー。

かわいい しろいはが、きらっと ひかりました。

おわり